

第2号様式（第4条関係）

身体障害者診断書・意見書（聴覚・平衡・音声・言語又はそしゃく機能障害用）

総括表

氏名	年 月 日生	男・女
住所		
障害名（部位を明記）		
原因となつた 疾病・外傷名	交通・労災・その他の事故・戦傷・戦災・ 自然災害・疾病・先天性・その他（ ）	
疾病・外傷発生年月日	年 月 日・場所	
参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）		
障害固定又は障害確定（推定）		年 月 日
総合所見		
<p style="text-align: right;">[将来再認定 要 ・ 不要] [再認定の時期 年 月]</p>		
その他参考となる合併症状		
<p>上記のとおり診断する。併せて以下の意見を付す。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日 病院又は診療所の名称 所在地</p> <p style="text-align: center;">診療担当科名 科 医師氏名 印</p>		
<p>身体障害者福祉法第15条第3項の意見（障害程度等級についても参考意見を記入）</p> <p>障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に該当する（ 級相当）。</p> <p>障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に該当しない。</p>		
<p>注</p> <p>1 障害名には現在起こっている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺^ひ、心臓機能障害等を記入し、原因となつた疾病には、緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄^{さく}等原因となつた疾患名を記入すること。</p> <p>2 障害区分や等級決定のため、山梨県社会福祉審議会から次ページ以降の部分について問い合わせる場合がある。</p>		

聴覚・平衡・音声・言語又はそしやくの機能障害の状況及び所見

[はじめに] (認定要領を参照のこと。)

この診断書においては、以下の4つの障害区分のうち、認定を受けようとする障害について、□にレを入れて選択し、その障害に関する「状態及び所見」について記載すること。

なお、音声機能障害、言語機能障害及びそしやく機能障害が重複する場合については、各々について障害認定することは可能であるが、等級はその中の最重度の等級をもつて決定する旨、留意すること(各々の障害の合計指数をもつて等級決定することはない。)

- 聴覚障害 → 『1「聴覚障害」の状態及び所見』に記載すること。
- 平衡機能障害 → 『2「平衡機能障害」の状態及び所見』に記載すること。
- 音声・言語機能障害 → 『3「音声・言語機能障害」の状態及び所見』に記載すること。
- そしやく機能障害 → 『4「そしやく機能障害」の状態及び所見』に記載すること。

1 「聴覚障害」の状態及び所見

(1) 聴力(会話音域の平均聴力レベル)

右	dB
左	dB

(4) 聴力検査の結果(ア又はイのいずれかを記載する。)

ア 純音による検査

オージオメータの形式 _____

	500	1000	2000	Hz
0				
10				
20				
30				
40				
50				
60				
70				
80				
90				
100				

dB

イ 語音による検査

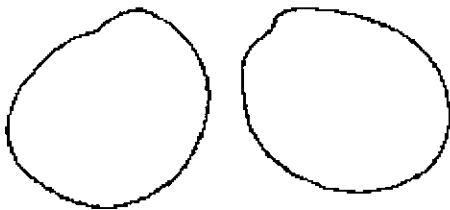
(2) 障害の種類

伝音性難聴
感音性難聴
混合性難聴

(3) 鼓膜の状態

(右)

(左)



語音明瞭度

右	%
左	%

(5) 身体障害者手帳（聴覚障害）の所持状況 有・無
(注) 2級と診断する場合、記載すること。

2 「平衡機能障害」の状態及び所見

3 「音声・言語機能障害」の状態及び所見

4 「そしやく機能障害」の状態及び所見

(1) 障害の程度及び検査所見

次の「該当する障害」の□にレを入れ、さらに①又は②の該当する□にレ又は()内に必要事項を記述すること。

- 「該当する障害」
- そしやく・^{えん}嚥下機能の障害
→ 「①そしやく・^{えん}嚥下機能の障害」に記載すること。
 - ^{こう}咬合異常によるそしやく機能の障害
→ 「②^{こう}咬合異常によるそしやく機能の障害」に記載すること。

① ^{えん}そしやく・^{えん}嚥下機能の障害

a 障害の程度

- 経口的に食物等を摂取できないため、経管栄養を行つている。
- 経口摂取のみでは十分に栄養摂取ができないため、経管栄養を併用している。
- 経口摂取のみで栄養摂取ができるが、^{えん}誤嚥の危険が大きく摂取できる食物の内容・摂取方法に著しい制限がある。
- その他

()

b 参考となる検査所見

ア 各器官の一般的検査

〈参考〉各器官の観察点

- ・ 口唇・下顎：運動能力、不随意運動の有無、反射異常ないしは病的反射
- ・ 舌：形状、運動能力、反射異常
- ・ 軟口蓋：挙上運動、反射異常
- ・ 声帯：内外転運動、梨状窩の^か唾液貯溜^{りゅう}

- 所見(上記の枠内の「各器官の観察点」に留意し、異常の部位、内容、程度等を詳細に記載すること。)

[]

イ 嚥下状態の観察と検査

〈参考1〉各器官の観察点

- ・ 口腔内保持の状態
- ・ 口腔から咽頭への送り込みの状態
- ・ 喉頭挙上と喉頭内腔の閉鎖の状態
- ・ 食道入口部の開大と流動物(bolus)の送り込み

〈参考2〉摂取できる食物の内容と誤嚥に関する観察点

- ・ 摂取できる食物の内容(固形物、半固形物、流動食)
- ・ 誤嚥の程度(毎回、2回に1回程度、数回に1回、ほとんど無し)

○ 観察・検査の方法

- エックス線検査()
- 内視鏡検査()
- その他()

- 所見(上記の枠内の〈参考1〉と〈参考2〉の観察点から、嚥下状態について詳細に記載すること。)

[]

② 咬合異常によるそしやく機能の障害

a 障害の程度

- 著しい咬合障害があり、歯科矯正治療等を必要とする。
- その他

[]

b 参考となる検査所見(咬合異常の程度及びそしやく機能の観察結果)

- ア 咬合異常の程度(そしやく運動時又は安静位咬合の状態を観察する。)

[]

- イ そしやく機能(口唇・口蓋裂では、上下顎の咬合関係や形態異常等を観察する。)

[]

(2) その他(今後の見込み等)

[]

(3) 障害程度の等級

(次の該当する障害程度の等級の項目の□にレを入れること。)

- ① 「そしやく機能の喪失」(3級)とは、経管栄養以外に方法のないそしやく・^{えん}嚥下機能の障害をいう。
具体的な例は次のとおりである。
- 重症筋無力症等の神経・筋疾患によるもの
 - 延髄機能障害(仮性球麻痺、^ひ血管障害を含む。)及び末梢^{しやう}神経障害によるもの
 - 外傷、腫瘍切除等による顎(顎関節を含む。)、口腔(舌、口唇、口蓋、^{くう}頬、そしやく筋等)、咽頭、喉頭の欠損等によるもの
- ② 「そしやく機能の著しい障害」(4級)とは、著しいそしやく・^{えん}嚥下機能又は^{こう}咬合異常によるそしやく機能の著しい障害をいう。
具体的な例は次のとおりである。
- 重症筋無力症等の神経・筋疾患によるもの
 - 延髄機能障害(仮性球麻痺、^ひ血管障害を含む。)及び末梢^{しやう}神経障害によるもの
 - 外傷、腫瘍切除等による顎(顎関節を含む。)、口腔(舌、口唇、口蓋、^{くう}頬、そしやく筋等)、咽頭、喉頭の欠損等によるもの
 - 口唇・口蓋裂等の先天異常の後遺症による^{こう}咬合異常によるもの

[記入上の注意]

(1) 聴力障害の認定に当たっては、JIS規格によるオーディオメータで測定すること。

dB値は、周波数500, 1000, 2000Hzにおいて測定した値をそれぞれa, b, cとした場合、 $\frac{a+2b+c}{4}$ の算式により算定し、a, b, cのうちいずれか1又は2において100dBの音が聴取できない場合は、当該dB値を105dBとして当該算式を計上し、聴力レベルを算定すること。

(2) 歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、「歯科医師による診断書・意見書」(別紙)の提出を求めるものとする。

(3) 小腸機能障害を併せ持つ場合については、必要とされる栄養摂取の方法等が、どちらの障害によるものであるか等について詳細に診断し、該当する障害について認定することが必要である。